

井原市立井原市民病院



井原市の草花 パンジー

病院だより

日本医療機能評価機構 病院機能評価3rdG:Ver2.0認定



2024年(令和6年)
2月発行



井原開闢所(野上町)

地域とともに歩み、
より愛される病院を目指して



井原市マスコットキャラクター
でんちゆうくん

内科

循環器内科

小児科

外科

整形外科

眼科

消化器外科

脳神経外科

耳鼻咽喉科

リハビリテーション科

放射線科

皮膚科

泌尿器科

産婦人科

救急科

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

2020年(令和2年)から猛威を振っている新型コロナウイルス感染症ですが、昨年(2023年(令和5年))5月から感染症法上の取り扱いが2類相当から5類に変更となり、当院においても入院時のコロナ全例検査の中止や面会制限の段階的な緩和など、感染状況をみながら徐々に対応をすすめてきました。しかし5類になったとはいえ新型コロナウイルス自体は変わっておらず、いまだに高い感染力を維持したまま変異を繰り返し、免疫逃避能力を持ち、若く健康な人には「風邪」と同じと言えると思いますが高齢者や基礎疾患がある人にとっては重症化しやすいという特徴も変わっていません。とくに当院に入院している患者さんは高齢の方が多く、新型コロナウイルス感染症による肺炎が重症化したり、持病の増悪や老衰の進行により急速に全身状態が悪化する症例が現在でもみられています。院内感染を起こさないこと、感染を拡げないことは患者さんにとっても病院運営においても非常に重要なことであり、重症化しやすい人を守るために、また病院スタッフを守るためにも感染対策は今後も継続していかなければならないと考えています。

今年2024年(令和6年)4月から「医師の働き方改革」がスタートします。2021年(令和3年)5月に成立したいわゆる「医療法等改正法」に基づき、「医師に対する時間外・休日労働の上限規制」が適用されます。当院では常勤医師が限られている中で、大学病院な

どから医師派遣を受け外来診療や内視鏡検査、日直・宿直業務を担っていただいています。当院においても「働き方改革」の開始に向けて準備をすすめ、労働基準監督署に申請して昨年8月に応援医師の「宿日直許可」を取得しました。これにより今まで通り大学病院などからの医師派遣を続けていただくことが可能となり、地域医療提供体制を守るうえで重要な要件を満たすことができました

昨年2023年(令和5年)は当院創立60周年の節目の年でした。人でいえば還暦にあたりますが、当院は地域の中核的な公立病院として今後も病院機能を維持しながら持続可能な病院運営を行っていかねばなりません。総務省から求められた「公立病院経営強化プラン」を1年以上かけて院内で策定し、昨年12月の「岡山県南西部地域医療構想調整会議」にて承認を得ました。今後はこの経営強化プランに沿って全職員がこれを目標として、それぞれの立場で自覚と責任感をもって業務にあたるように努めていかねばなりません。常勤医師の確保が難しいことや常勤医師の高齢化の問題はありますが、当院が今後も持続していけるように、地域の医療機関の先生方との連携を強化し、福山市や倉敷市の高次医療機関とも連携して、地域住民の方々の健康と医療を守っていくよう努力を続けていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 内科医長
しまだ もりぞう
島田 百利三

2024年(令和6年)、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日頃より、井原市民病院へのご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

2023年(令和5年)5月に井原市民病院は開院60周年を迎え、記念誌も発行されました。掲載されていた写真や記事などから、お世話になった方々が思い出され、とても懐かしい気持ちになりました。その時代その時々懸命に取り組んだ結果が現在につながっていることをしっかりと受け止めたいと思います。

5年後・10年後の井原市民病院のあるべき姿を目指して、経営強化プランに則って計画的に実践していくことが重要だと考えます。市民の皆さんから理解さ

れ、信頼され、必要とされる病院を築いていくことが私たちの目標です。各部署での行動目標や数値目標などを見直し、軌道修正しながら今年一年それぞれの目標達成に向けて懸命に取り組みたいと思います。

何より井原市民病院は、市民の皆さまの命と健康を守るのが使命です。そのためには地域の医療機関の皆さま、介護・福祉施設の皆さまはもちろんのこと、地域の方々とも連携をより一層深めていかななくてはなりません。皆さまとさまざまな情報を共有し、一つでも多く課題解決に向けて取り組んでまいります。今年一年、皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



副院長
いけだ えつこ
池田 悦子

私事になりますが、当院においての部長職も、診療部長、医療技術部長、そして今回の手術部長で3つ目になりました。それぞれの部署、その時々で色々なことを感じ見てきたように思えます。それぞれの問題には、解決できたこと解決できなかったことがありました。それでも一人一人のスタッフは、鋭意努力してくれていることを皆さんにはお伝えしたいと考えます。

手術部も小さな部署ですから、大きなことができるわけではありませんが、術者、補助者、麻酔医、看護師などの協力のもと、患者さんに少しでも良いことが

できるよう、いつも心掛けています。当院に限ったことではありませんが、新型コロナウイルス感染症は5類にはなったものの、手術の予定を難しくする一因として残っています。合併症を多く抱えた高齢の患者さんを手術していくのは、なかなか難しいのだということをご理解いただきたいと思います。

一方で、そんな井原市民病院だからこそできることもあるように感じています。近隣医療機関とも協力しつつ、地域の皆さんの健康に貢献できればという気持ちで進んでいこうと思います。



手術部長
ひら た てつ お
平田 哲男

2023年度(令和5年度)から診療部長に就任しております立古です。

インフルエンザと新型コロナの2つのウイルス感染の同時流行などにより、医療現場は慌ただしい状況での年明けとなりました。しばらくこの状態が続くと思われまます(2024年(令和6年)1月現在)。福山市や倉敷市の高次の医療機関、井原市内および周辺のクリニッ

ク、矢掛町や笠岡市の医療機関等の皆さまと連携をとりながらこの難局を乗り越えていければと考えております。

井原市民病院で働く全ての皆さんも大変な毎日が続くと思われまますが、心と体の健康に気を付けていただきますようお願いいたします。



診療部長
りゅう こ ひろ まさ
立古 浩雅

ドック・健診部長を拝命し、もう少しで1年となります。ドック・健診業務にもだいぶ慣れてきました。現在、2024年(令和6年)4月からの新しい健診ソフトの入れ替えに備え、スタッフ一同書類等の総整理中です。万が一の不備などがございましたらご教示ください。新年度も引き続き、安心で安全、そして快適な健診を受けていただけるよう、鋭意努力してまいります。

人間ドックの使命である国民の健康増進、生活指導による一次予防、早期発見・早期治療による二次予防の重要性を再認識し、人間ドックの担当医として、資質の向上を図り、健康寿命を延伸するために、質の高い人間ドック健診を行うことができます、社会に信頼される人間ドック健診医をめざしたいと考えています。また、引き続き内科医としても地域に貢献していきたいと思っています。



ドック・健診部長
くり やま もと あき
栗山 宗彰

近年の医療技術の進歩は目覚ましく、さまざまな専門的知識やスキル(技能)が求められます。その中で、多種多様な医療スタッフが、各々の専門性を生かし、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも、お互いに連携・補完し合い、患者さんに的確な医療を提供するチーム医療の重要度が増しています。

医療技術部は、薬剤科、放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、栄養管理科の5部門で組織され、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、

臨床工学技士、視能訓練士の9種類の国家資格者を含めた総勢57名の職員で構成されており、それぞれの専門分野を生かし、地域の皆さんに、質の高い、安心で安全な医療が提供できるように、責任感を持って職務に励んでいます。

チーム医療の一員としての役割が増す中で、各職種間、および診療部、看護部、事務部などの各部署間で緊密な連携を取りながら、患者さんにより良い医療を受けていただけるよう、日々精進していく所存です。



医療技術部長
内科医長
かし たに さとし
梶谷 聡

近年はVUCA(ブーカ:将来の予測が困難な状況)の時代と言われ、不確実で先が見えない今、患者さんの価値観やニーズも様々であり、専門職である看護師も極めて高いスキルが求められる時代になってきています。医師の働き方改革の推進や多職種連携が重要となっている中、看護師の業務拡大は必須であり、人材育成を最重点課題として取り組んでまいりました。人材育成とは、ひとつの通過点であり、今後当院が地域の皆さんに頼られる病院になるために、自分たちはどうなりたいのか、患者さんに何ができるか、そのためにはどのような人材が必要なのかを深く考え、本年も人材育成に力をそそいでまいりたいと思っています。

看護の大先輩であり、私の尊敬する坂本すが先生は、看護師の仕事は「間隙手(かんげしゅ)」であると常々言われていました。“患者さんが深刻な谷間に落ちないようにいつも看着いる、それが看護である”

と。看護師は24時間365日患者さんのベッドサイドで患者さんを見ています。患者さんが谷間に落ちないように、患者さんの周囲を行きかう多職種の動きを観察し、アセスメント(評価・分析)しています。そして、時間と、知識を使って、調整しているのが看護師です。

チーム医療のキーパーソンと言われている看護師が、院内だけではなく、地域とのつながりにも力をそそぎ、一人でも多くの患者さんの希望に添える関わりができれば私は思っています。そして、患者さんとの関わりを通して、看護師一人一人が輝き、自信を持って看護ができるよう、今以上に看護師の教育、指導に尽力してまいります。

新しい年が明け、一人一人また新しい目標に向かって歩み出しています。

今年一年が、地域の皆さんにとって、また我々職員にとっても、実り多き一年になりますことを願っております。



看護部長
みづもと いずみ
三宅 泉



新型コロナウイルスの混乱も少し落ち着き、反面、季節性インフルエンザウイルスが猛威を振るった昨年未でしたが、令和6年の輝かしい新年を迎えるにあたり、多くの方が幸せな1年を願い、心新たに期待に満ちたスタートを切られたことと思います。

長年控えていた初詣を再開された方も多いのではないでしょうか。私もここ最近では人混みを避け、地域の氏神様へのお参りに留めていましたが、今年は少し遠方の有名なお稲荷さんへお参りしてきました。

「初詣で何をお願いされましたか?」、多くの方が「健康で・・・」と、ご自身やご家族の1年間の無病息災を祈願されたことと思います。

井原市民病院には、「私たちは、市民の生命(いのち)と健康を守り、心のこもった診療をいたします。」という、“職員の誓い”があります。多くの市民の願いである「健康」の増進に大きく貢献できるよう、全病院職員がこの誓いを胸に、今年一年、信頼され愛される病院を目指してまい進してまいります。



事務部長
つぐみ ゆういちろう
津組 勇一郎

新入職員紹介

よろしく
お願いします

看護師 助産師 にしひら 西平 ひろみ

このたび中途採用で、11月から勤務をさせていただきます。

以前は医院で助産師として働いていました。井原市民病院では産科外来が再開されたということで、助産師として働いてきた経験を少しでもお役に立てられたらと考えています。新しい環境で分からないことだらけで不安もありますが、先輩方にしっかり聞いて、身につけて、患者さんにとって安心で安全な医療を行えるように努力をしていきたいと思っています。ご指導よろしく願いたします。



診療放射線技師 やました あやこ 山下 文子

2020年度より会計年度任用職員として勤務していましたが、このたび正職員として入職させていただきました。以前にも複数の病院で放射線技師として勤務経験がありますが、当院での3年間では、多くの分野の検査に携わり、先輩方の丁寧な指導のおかげで知識や技術の向上につなげることができました。これからも、その経験を生かし患者さんには安心して検査を受けていただき、他部署の職員の方にも放射線科内でも信頼していただけるよう日々努力いたします。



市民公開講座

安心、安全を提供する これからのお産

これからのお産

～医師の働き方改革、医師不足でも安心・安全に～

岡山大学学術研究院医歯薬学域
産科・婦人科学
井原市民病院産婦人科
ますやま ひさし
増山 寿



医療水準の向上により、世界でもトップクラスの周産期医療を維持している我が国において、ハイリスク妊娠が増加し、求められる医療安全の水準が高くなる状況では、大規模分娩施設にマンパワーを集約することで、国民に対してより安全な分娩環境を提供することが求められています。情報共有にITを活用し、分娩施設と健診・産後ケアを分離することにより、国民に対してアクセスの便利さと出産、育児のしやすい環境を提供することにより地域の活性化につながります。医療者はマンパワーの集約化により、医療界の多様な働き方を認められる労働環境が可能となることからダイバーシティ・働き方改革にも対応できます。

周産期セミオープンシステムとは、分娩を取り扱っていない施設と分娩を取り扱っている病院や周産期母子医療センターが連携して、妊婦健診は近くの施設で受け、分娩は病院や周産期母子医療センターで行うことにより、妊産婦の利便性を保ちながら、それぞれの医療機関の特性を生かした役割分担で、その機能を有効に発揮させるシステムです。アメリカやヨーロッパでは以前から一般的な健診、分娩のスタイルとして定着しており、岡山大学でも厚生労働省のモデル事業として開始し、現在も運用しています。

母子保健・子育て支援に熱心な井原市、岡山大学から週2回産婦人科外来に医師を派遣しており、助産師も在籍している井原市民病院、近くに高次医療施設(福山市民病院、福山医療センター、倉敷中央病院など)がある環境で、持続可能な(持続可能な)周産期医療の構築のためのサポート、バックアップを岡山大学が行い、このセミオープンシステムを導入しています。地元で顔の見える妊婦健診・産後ケアそして育児支援の充実につながればと思います。



市民公開講座

安心、安全を提供する
これからのお産

(井原モデルの構築)

2023年 11月5日(日)
14:00～16:30 (開場 13:30)
会場：アクティブライフ井原 (メルベンホール)

入場無料
申込不要

手話通訳
託児
有り

妊娠中健診や分娩の不安を解消し、安心して産むためのサポートを、産科・婦人科学の専門知識と最新の医療技術で提供します。

4 シンポジウム
① 井笠地域における産婦人科の現状と課題解決に向けて
産科健診所 井笠支所長 井上 五月氏
② 全国におけるITを活用した出産支援の現状 - 事例紹介 -
国立大学法人 岡山大学 名誉教授 原 麗宏 先生
マロティ・イノテックラボラトリー CEO 尾形 優子氏
③ 井原市民病院の取組
井原市民病院 院長 合地 明
④ 井原市の取組
井原市長 大舌 勲
⑤ 総合討議
⑥ 閉会

お問い合わせ先 井原市役所 健康医療課 0866-62-8224
【主催】井原市 【共催】井原市立井原市民病院

プログラム

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 基調講演
これからのお産
— 医師の働き方改革、
医師不足でも安心・安全に —
岡山大学医歯薬学総合研究科
産科・婦人科学
教授 増山 寿 先生

救急科からの研究報告

「低体温症！」

岡山大学学術研究院医歯薬学域
高齢者救急医療学講座 助教

あおかげ としゆき
青景 聡之



こんにちは、救急科の青景と申します！井原市民病院からの暖かい(文字通り!)ご挨拶です。今回のコラムは、寒い冬でも皆さんを暖かく保つためにハイテンションでいきます。そう、今回のテーマは「低体温症」です！

皆さん、低体温症と聞くと「冬山での遭難」や「水難事故」を思い浮かべるかもしれませんね。まるで映画のワンシーンのようですが、実は、このドラマは我々の身近なところでも繰り広げられているのです。そう、なんと自宅や施設内での低体温症が増えているのですよ！

「えっ、家の中で?!」と、驚かれるかもしれませんが、井原市でも毎年10~15件の低体温症が報告されています(ほとんどが家の中です)。特に12月から2月にかけて、この「冷え込みエピソード」が多発します(図1)。寒さが厳しいこの時期、暖かい家庭で過ごすことは、まるで冬眠中の熊のように心地よいのですが、油断は禁物です！

特に気をつけていただきたいのは、井原市の愛すべき高齢者の皆さんです。なんと、低体温症患者の平均年齢は78歳(図2)。これは言うなれば、「経験豊富な冬」を過ごしてきた方々が、最も注意すべき対象ということです。高齢の方の若い頃は暖房も乏しく、寒さに慣れて、また我慢強い人が多いのが特徴です。しかし、年を取るにつれて体温を維持する機能も低下してきており、寝ている時にいつの間にか低体温になってしまうことがあります。

では、どのようにしてこの冷たい敵、「低体温症」と戦えばよいのでしょうか。まず、自室での暖房を適切に行い、寒さから身を守りましょう。また、屋内でも厚着をする、温かい飲み物を飲むなど、小さな工夫が大きな違いを生むことも忘れないように。最後に、特に高齢者の方々には、冬場の体温管理に特に注意し、寒さに震えることがないようにすることです(震えは低体温症の初期症状です)。

コラムを締めくくる前に、1つだけ覚えておいていただきたいことがあります。「寒さは静かな侵入者です。」ですから、暖かさを友とし、寒さと上手に付き合っていきましょう！

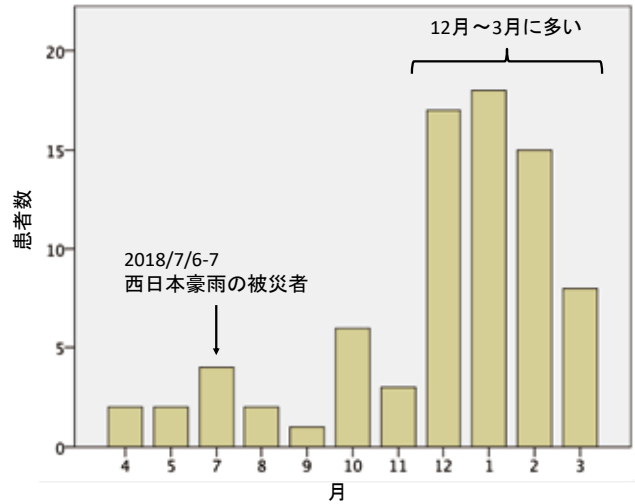


図1 月別の低体温患者数のヒストグラム

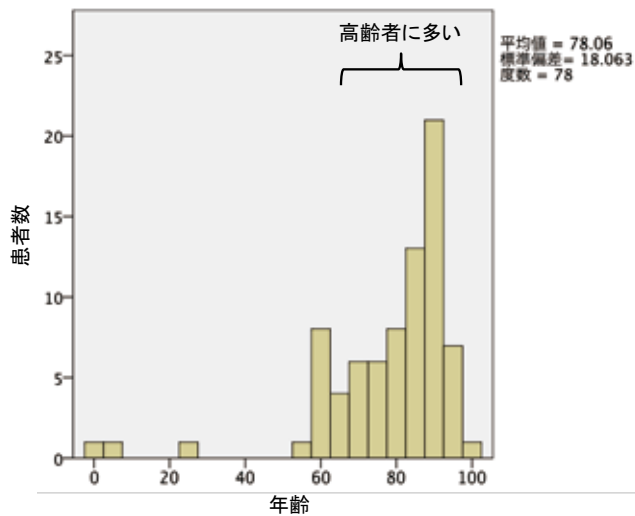


図2 年齢別の低体温患者数のヒストグラム





糖尿病教室

糖尿病連携手帳

2023年(令和5年)10月3日

今回の糖尿病教室では**糖尿病連携手帳**について紹介させていただきました。

糖尿病は長期にわたって継続治療が必要な病気です。「かかりつけ医」だけでなく、専門医、歯科医、眼科医、看護師、薬剤師、栄養士、ケアマネージャーなどが連携して対応していくことで患者さんを支えています。糖尿病連携手帳とは「**患者さんと医療者をつなぐ連絡帳**」です。複数の医療機関を受診するときや救急で初めての病院を受診するときにも、これまでの糖尿病の経過が把握できるので多職種間で情報を共有できます。患者さんご自身も経過を確認し、生活を振り返るために有効な手帳です。

当院では内科と眼科で責任を持って連携手帳に記載しています。ぜひともご活用いただいて受診にお越しく下さい。



外来看護師
ほり なおこ
堀 尚子

糖尿病を放っておくと…

2023年(令和5年)11月7日

糖尿病は完全に治る病気ではなく、一生付き合っていかなければならない病気です。また、生活習慣病のひとつであり、これは血糖値を目標のレベルにするために生活習慣が大きく関係しているという意味です。

糖尿病を治療せずに放置しておく、様々な合併症を引き起こします。代表的なものは、腎臓・目・神経の病気ですが、患者さん一人一人によって病気の状態は違いますし、必要な治療も異なります。糖尿病であることを恥ずかしく思う必要はありませんので、自分に合った治療をしましょう。

超高齢者(85歳以上または90歳以上)の方も血糖値が高いと、骨折や肺炎になった時に治りにくいことが多いため、できるだけ血糖値の管理をしましょう。



診療部長
りゅう こ ひろまさ
立古 浩雅

運動と血糖値

2023年(令和5年)12月5日

運動療法は食事療法と並んで糖尿病治療の基本となります。運動により、エネルギーを消費して血糖値のコントロールをすることができます。また、筋肉の活動量が増えることで悪かったインスリンの働きを改善できます。

糖尿病の患者さんには筋力をつけるレジスタンストレーニングよりも、ウォーキングなどの有酸素運動が適していると言われています。歩行は1日8千~1万歩、消費エネルギーとして160~240kcalが良いとされています。

1日15~30分、2回程度を行います。毎日行わなくてもかまいません。週に3日以上運動が望ましいとされています。65歳以上の方でこれらの目標の達成が難しい場合は、横になったままや座ったままにならなければどんな動きでも良いので、身体活動(生活活動や運動)を毎日40分程度行うようにしましょう。

糖尿病の状態や合併症によっては運動療法を控える必要がある人もおられます。運動を始められる前には、医師の指導を受けてから適切に始めると安心です。



理学療法士
やまさき かなえ
山崎 佳奈枝



ポスター発表／リハビリテーション分科会(地域リハビリ)

「地域包括ケア病床における リハビリテーションへの代替ケアの導入について」

当院は、地域包括ケア病床を含むケアミックスでの病床運用を行っています。そのため、リハビリ資源をどの患者さんに割り当てていくかの管理が非常に難しい状況にありました。そこで、地域包括病床にリハ代替ケアを導入し、その問題に改善を図ったというのが今回の内容になります。

リハ代替ケアは、患者さんのそばで個別に直接介入するケアということでは疾患別リハと大差はないのですが、時間の制約に縛られないというメリットがあります。その導入によってリハビリ時間の管理には多少融通が利かせられるようになったと思います。

学会会場では、リハ代替ケアそのものの内容や届け出の必要性などについて質問を受けました。また、同じようにケアミックスでの病床運用を行っている病院での対策方法ややはりなかなか誰しもが苦勞しているという情報共有ができました。

長年、自分に地域包括病床でリハビリについて思うところがあり、出発点として報告させていただきました。今後さらに効率のかつ患者さんにも満足いただけるようなリハビリの提供につながればと考えています。

手術部長
ひらた てつお
平田 哲男



ポスター発表／リハビリテーション分科会(管理・運営)

「地域包括ケア病棟における代替ケア導入の検討 ～FIMに焦点を当てた後方視的調査～」

当院は一般病棟、療養病棟に加えて地域包括ケア病棟という病棟を有しています。この地域包括ケア病棟は、自宅や住み慣れた地域と、よりつながりを密にする病棟であり、リハビリテーション科もその一端を担う部署として日々従事しています。そのためには限られた人員のなかで各病棟へのリハビリテーション提供量のバランスを取りつつ、質を担保していく必要があります。

今回、地域包括ケア病棟において各患者さんの目標達成状況に合わせて、身体機能・日常生活動作の向上を目的とした従来のリハビリテーションと、維持を目的とした代替ケア(生活場面での指導)とに分け、それぞれの介入成績を比較し、その結果、通常のリハビリテーションでは日常生活動作の指標(FIM)に改善がみられ、代替ケアでもFIMが維持されていたということを発表しました。

会場でも地域包括ケア病棟を有する他の病院からご意見をいただき、非常に参考になりました。今後もより効率的で質の高いリハビリテーションの提供に向け邁進したいと思っております。

主任作業療法士
にしおか きよたか
西岡 清隆



「CT体幹部造影検査撮影範囲の再設定（線量管理に添えて）」



主任放射線技師
こもり よういちろう
小森 陽一郎

● 目的

2020年（令和2年）4月からCT装置など被ばく線量が高い検査においては、関連学会等の策定したガイドラインなどを参考に被ばく線量の評価および線量を適正化することが義務化されました。これを受け、当院でもCTDI値とDLP値（被ばく線量の指標となる数値）の管理をしていましたが、同一の検査内で撮影範囲にバラツキがみられるなど線量管理のうえで支障が生じていたため、検査内容の見直しや撮影範囲の再設定の検討を行いました。

● 方法

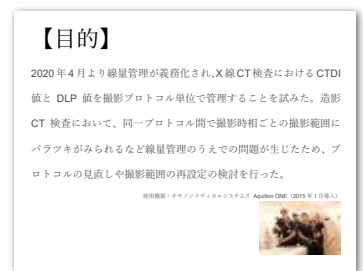
2022年度（令和4年度）のCT撮影リストから体幹部（胸やお腹）の造影検査を抽出し、それぞれの検査ごとに撮影範囲を図表化しました。

● 結果

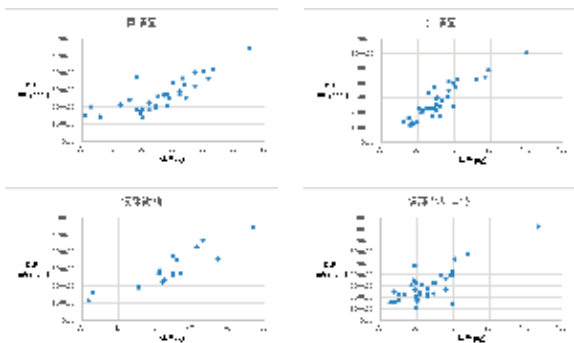
撮影範囲を図表化し、見える化することで、検査を担当する放射線技師間の理解が深まり、今までは撮影範囲をフレキシブルに変化させながら検査を施行していましたが、それぞれの検査ごとに撮影範囲を単一化することができました。

● 結論

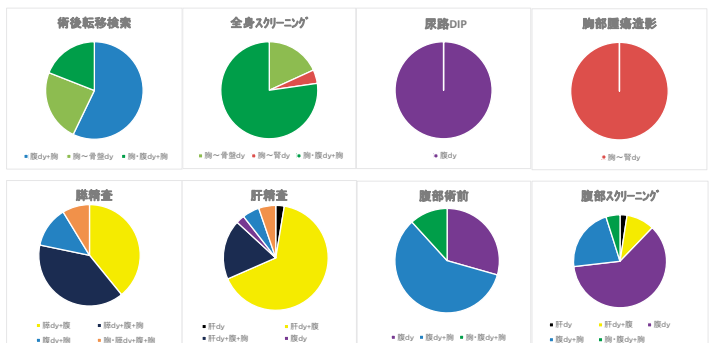
CT装置の線量管理において、撮影範囲などを再構築することで、放射線量の異常値の検出や原因分析において有用であるとの報告もあり、今後の精度の高い線量管理に役立つ効果が得られたものと考えます。



DLP 散布図



プロトコルごとの旧撮影範囲



「超音波検査が診断に有用であった両側大腿深動脈瘤の1例」



臨床検査技師
せきとう やすひろ
関藤 恭弘

第61回全国自治体病院学会の臨床検査分科会でポスター発表を行いましたので報告いたします。今回発表した大腿深動脈瘤は、発生率が全末梢動脈瘤の0.5%程度と言われ、両側症例の報告も少なく、非常に稀な疾患でした。腹部や胸部の大動脈瘤は散見されますが、大腿動脈に形成された動脈瘤は、私自身も初めて経験した症例でした。大腿部の動脈瘤は、深い位置で筋肉に囲まれた部分に発生しますので、巨大になって発見されることが多く、破裂の危険性もあるため、早期の発見と治療が望ましい疾患です。超音波検査は簡便で繰り返し実施でき、早期発見から早期治療に繋げる第一選択の検査と言えます。また、動脈瘤の経過観察や破裂のリスク評価などにも有用と考えられます。

今回、自身の発表で多くのことを学ぶことができました。また、他の方々の発表や講演を拝聴することで、新たな知識を得る事もできました。今後は、学会を通して得られた知識を業務に生かしていきたいと思えます。



● 地域医療連携研修会 ～これからの在宅医療について～

開催日：2023年(令和5年)11月30日

団塊世代の方のすべてが75歳以上となる2025年(令和7年)を目途に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていくことができるよう、医療や介護、生活支援、介護予防が一体的に供給される地域包括ケアシステムを構築することが求められています。そのためには、看護師、リハビリ、栄養士、薬剤師といった多職種が連携して、自宅での安心した生活を送ることができるように支援していく必要があります。

当院では、在宅患者さんに対して薬剤師が服用中の薬剤の管理及び指導を行うことで、在宅医療をより充実させ、可能な限り長く在宅での療養が続けられるようにとの思いから、薬剤師が在宅訪問を行うこととし、2023年(令和5年)9月から訪問看護に同行する形式で、患者さんのご自宅への訪問を開始しています。

訪問時に主に行っていることとしては、初回訪問時には、調剤方法の確認、薬の管理・保管の方法の確認、薬の取り出し困難はないか、服用が難しい薬はあるかなど、内服状況の確認などで、この他にも、当院以外で処方された併用薬や健康食品・サプリメントの有無についての聞き取りも行っています。

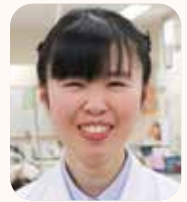
初回以降は、継続して薬が効いているか、副作用は現れていないか、残薬の確認や希望者へは配薬カレンダー等への配薬、薬についての相談・指導、医療用の麻薬使用者に対する痛み管理の評価を行っています。

訪問看護師に同行する形式をとっていることにより、連携

をスムーズに行うことができ、同時に医師への報告も詳細かつ的確になっています。

また、患者さんやご家族にとって、看護の面、薬の面での相談窓口が1箇所になるので、相談による対応がより早くに行えています。

今後も、在宅療養を続けながら生活を続ける方は増加することが見込まれており、次年度に向けて在宅訪問の体制作りを訪問看護師と共に検討していきたいと思っています。



薬剤師
つちや さおり
土屋 沙織



● 看護部伝達講習—岡山県がん薬物療法看護指導者研修

開催日：2023年(令和5年)9月16日～17日
会場：岡山大学病院(ZOOM+対面)

この指導者研修の目的は、がん薬物療法看護において専門的知識や技術を持ち、看護実践および指導ができる人材を育成し、岡山県全体のがん薬物療法看護の向上を目指すというものです。研修では、抗がん薬の曝露対策と安全な取り扱い、患者さんやご家族への指導方法、チーム医療、症状マネジメント等の講義がありました。

曝露とは、物質的因子や化学因子、作業条件により健康障害が現れる、あるいは疑われる物質や薬品(危険薬剤(Hazardous Drug: HD))にさらされることをいいます。

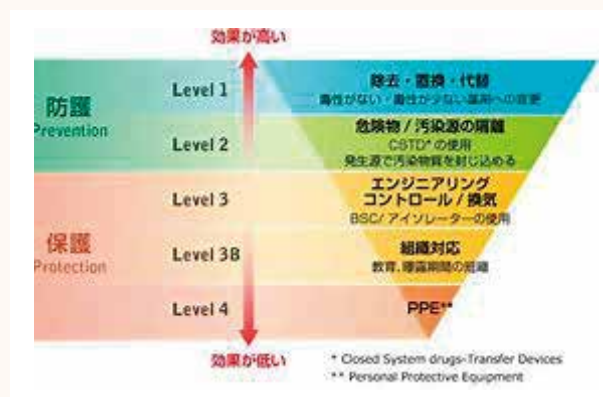
危険薬剤HDを取り扱う場合、調整時や投与時、投与管理時の取り扱い、HDがこぼれた時の対応が極めて重要であり、十分な看護師教育のみならず、患者さんへの教育・指導も必要となります。

今回の伝達講習は、HDによる曝露と毒性についての知識の必要性や曝露の危険・リスクを把握し対応できる技術の習得のため、院内で行いました。

講習では、当院でがん薬物療法に携わる看護師に、一歩間違えれば自分にも健康被害が及ぶことをまず知ってほしいということが一番の目的でした。そして、抗がん薬で治療をしている患者さんやご家族に安全に治療が受けただけのように教育することの大切さを理解して、この伝達講習で得た知識を日々の看護実践に役立ててもらえたらと思います。



外来看護師
ふじさわ けいこ
藤澤 恵子



● 子どもの保健医療研修会

「食物アレルギーについて」

開催日：2023年(令和5年)12月15日

2023年(令和5年)最後の子どもの保健医療研修会は、「食物アレルギー」をテーマに、井原地域の幼稚園教諭、栄養士の方々を対象として開催されました。

保育施設・幼稚園や学校において、子どもたちに起こりうる緊急事態の代表的なものに**アナフィラキシー・ショック(単にアナフィラキシーとも略されます)**があります。給食あるいはおやつを食べた後、急に体調の異変(具体的には、①蕁麻疹が急速に広がる、②目がかゆくなる、充血する、③喘息のような咳がでて息苦しくなる、④おなかが痛くなり下痢や嘔吐をする、など)があった場合は、アナフィラキシーが疑われ、速やかな医療的対応が必要となります。**意識低下などが起これば生命の危機**があります。

このような事態が起こる原因は、給食やおやつに含まれる特定の食物成分にあります。このような食物成分に対するアレルギー反応を「食物アレルギー」といいます。

子どもの保育・教育支援を行う施設において、もっとも大切なことのひとつに、入園、入学前にしっかりと施設側と保護者が一人一人の子どもについて、何かアナフィラキシーの原因となりうる食物があるかどうかの情報交換があることは言うまでもありません。

2024年(令和6年)も、様々な立場で子育てに関わる方々を対象として、子どもの保健医療研修会を毎月第3金曜日の午後に開催します。奮ってご参加いただけたら幸いです。



新見公立大学副学長
岡山大学名誉教授
おだめぐみ
小田 慈

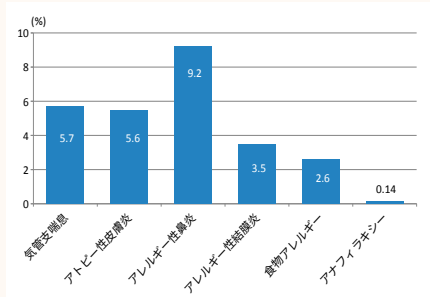


図. 児童生徒全体のアレルギー疾患有病率

平成16年6月 文部科学省全国調査より

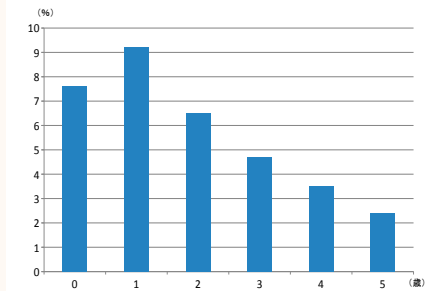


図. 年齢別の食物アレルギー有病率 (厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」2011 より引用)

学生実習

実習期間

2023年(令和5年)11月6日～11月17日

みはらるるか
くらしき作陽大学 食文化学部 栄養学科 3年 **三原 琉々夏**

私にとっては今回が初めての病院実習であり、とても実りのある2週間となりました。カンファレンスや委員会を見学させていただいた際には、多職種連携について理解が深まりました。栄養指導では、患者さんとのコミュニケーションのとり方や、指導後も継続できる部分を一緒に探したりするなど、患者さんに合わせた指導方法を見学させていただき、とても勉強になりました。井原市民病院での実習が今後の人生で、大きな経験となりました。



職員表彰

病院優良職員表彰 (岡山県病院協会)

いいじま よしえ
外来副看護師長 **飯島 芳枝**

井原市民病院で長きにわたり看護師として勤めてこられたことは、一緒に働く仲間や家族の温かい支えと、私を看護師として受け入れてくださった患者さんのおかげだと心から思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも自分自身の体調管理に留意(外来看護師の中では1番の年長者になりました…)しながら、日々研鑽に励み、郷土の医療に微力ながらも貢献できるよう努力いたします。



病院優良職員表彰 (岡山県病院協会)

せのお まさこ
4階病棟主任看護師 **妹尾 正子**

このたびは病院優良職員として表彰していただきありがとうございます。

産前の休暇や育児休業をはさみ、子育てをしながら25年間勤務することができたのは、諸先輩方やスタッフの皆さんの支えがあったおかげであり、そして何よりも家族の存在が大きかったと感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も感謝と思いやりの気持ちを忘れずに、患者さんに安全に治療を受けていただき、安心して療養していただけるよう、日々努力していきたいと思ひます。



● 井原放送「市政だより」に出演

地域の皆さんに「役立つ医療の情報を提供」するため井原放送にて放送中の行政番組『市政だより』のコーナー『いきいき健康教室』に出演しています。

- 当院の担当月…………… 2024年(令和6年)4月の予定
- 放送時間…………… 毎週火曜日の夜と、水曜日の午前中に、井原放送にて繰り返し放送中



▶ 放送した動画は、当院のホームページでもご視聴いただけます。



▼ 2023年(令和5年)12月放送内容

正しい手指消毒

今回は看護部より、手指消毒の正しい方法についてご紹介しました。手指消毒は、感染症の予防において非常に重要な役割を果たします。正しい手指消毒を行うことで、病原体が広がることを防ぎ、自分自身や他の人々を守ることができます。また、手荒れを予防することも大切です。

手指消毒のステップ

1. 適切な消毒剤選び

まず、適切な消毒剤を選びましょう。アルコールベースの消毒液が一般的に使用されており、ウイルスや細菌に対して効果的です。消毒液のアルコール濃度は70%以上が推奨されていますが、入手が困難な場合には60%台のもので差し支えありません。



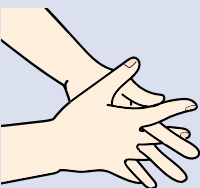
2. 適切な量を使う

手のひらにコインサイズの量(約2~3ml)の消毒剤を取ります。過度に多くの消毒剤を使う必要はありませんが、不足することも避けましょう。



3. 手や指全体にすり込ませる

消毒液を手に取ったら、両手の手のひら、指の間、爪の下、手首に均等に分布させるようにすり込みます。特に指の間や爪の下にも消毒液が行き渡るようにしましょう。



4. 消毒時間を守る

消毒液をぬったら、15~20秒間(約2倍の「Happy Birthday」の歌詞の長さ)手にすりこみましょう。これにより、消毒剤がウイルスや細菌を殺すのに十分な時間が確保されます。



5. 自然乾燥

消毒が完了したら、タオルや紙タオルで手を拭かず自然乾燥させましょう。手を拭くことは手荒れを引き起こす原因となります。



手荒れの予防

手指消毒が手荒れにくいという点も覚えておきましょう。水と石鹸による手洗いは大切ですが、頻繁な手洗いは肌を乾燥させることがあります。手指消毒はアルコール濃度が高いため、肌を保護しながら感染を防ぎます。

手指消毒は感染症予防の一環として、日常生活で積極的にいきましょう。正しい手指消毒の方法を実践し、手荒れのリスクを減らしながら、自身と他の人々を守る手段として活用しましょう。



4階病棟看護師
みしま しゅうすけ
三嶋 秀輔



4階病棟看護師
やまもと はるか
山本 遥伽



3階病棟看護師
おくた さき
奥田 彩貴

● 第64回 日本視能矯正学会 座長

開催日：2023年(令和5年)11月18日~19日

視能^{*}矯正学会は、視覚機能に関する研究結果や臨床報告を発表する学術集会です。このたび、香川県高松市で開催された日本視能矯正学会において、浜松医科大学医学部附属病院の視能訓練士の方と共同で、口演発表「視能検査(斜視)」の座長を務めさせていただきました。

初日は西日本に強い寒気が流れ込んだ影響で天候が大荒れとなり、強風のために瀬戸大橋線の列車も始発から運休となりましたが、会場には多くの眼科医や視能訓練士が集まり盛会でした。2日目は一転して晴天となり、風光明媚な瀬戸内海と多島美を眺めることができました。

私が担当した斜視の分野は古くから研究されてきましたが、診療機器の進歩によって現在でも新しい発見があり、これまで明らかではなかった病態が次々と解明されています。



視能訓練士
ふじい ちあき
藤井 千晶

発表された演題の中には、高齢者の斜視やデジタルデバイスが視覚に与える影響など、時世を反映したものもありました。

座長という貴重な機会をいただいたことに感謝しつつ、発展し続ける医療に後れを取らないように視能訓練士として研鑽の必要性を実感した学会でした。

※視(みる)能(ちから)を表し、視覚にかかわる能力を総称した用語です。

快走！おかやまマラソン

開催日：2023年(令和5年)11月12日

「おかやまマラソン」に参加するのは、今年で2回目です。去年も参加し、念願であったフルマラソンを4時間で走りきること(サブ4)を達成しましたが、今年はそれ以上の3時間半で走りきる(サブ3.5)を目標に日々トレーニングをしてきました。

結果は、28km地点まで良いペースで走っており、これは行けるぞと思いましたが、急に足がつりそうになり、30km地点の岡南大橋でおかやまマラソンスペシャルアンバサダーである有森裕子さんとタッチした瞬間、足がピキッとこれではつってしまうぞと思い、スピードを緩めてしまいました。残り12kmは両足を引きずりながらゴールに向かい、なんとか4時間で走り切ることができました。足がつりながらも去年より4分ほどタイムを縮めることができましたが、フルマラソン4回目にして初めて足がつってしまい、悶絶しました。足がつった原因は、水分不足、電解質不足、冷えなど様々であり、やはりフルマラソンは奥が深いと思いました。

今回の大会では、私の上司でもある4階病棟の崎谷副看護部長、作業療法士の佐野さん、臨床検査技師の関藤さん、社会福祉士の妹尾さんの4人も参加されていました。皆さんそれぞれ、ベストを尽くされました。

私は普段、看護師として業務に携わっていますが、交替勤務のため夜勤もあります。4~5日/週のトレーニング時間を確保するために休日は必ず走り、長距離走の練習、夜勤前や夜勤明けで走る、日勤終わりに走るなど工夫し趣味であるマラソンに取り組んでいます。

マラソンをしていると、自分自身に打ち勝たなければいけないので精神力が鍛えられると思っています。その鍛えられた精神力のおかげかはわかりませんが、日々の業務のストレスを溜め込みにくく、走ることでストレス発散にもつながっていると思います。

次のマラソンは2月に「そうじゃマラソン」にエントリーしているので、サブ3.5を目指しリベンジしたいと思っています。



4階病棟看護師
よしだ ゆうや
吉田 祐也



私の趣味 アクアリウムに魅せられて

アクアリウムとは水生生物の飼育設備のことを指します。その規模は水族館など大きな施設から家庭用の小さな水槽、金魚鉢まで幅広くあります。

私の家には子供の頃から水槽があり、水族館も好きで旅先では必ず立ち寄っていました。いつの間にか愛魚家になった私は大人になり、いつでもアクアリウムを眺められるようにと、リビングへ水槽を置いて15年がたちました。

きれいな水草が生い茂る中を色とりどりの熱帯魚たちが泳ぎ回る水景は、爽やかで癒やしを与えてくれます。家庭用水槽では鑑賞だけでなく、魚たちの居住環境を最適にする構図を考えたり、様々な性格を持つ水草の健康状態を保ち管理する面白さもあります。

ぜひ皆さんも、色んな形で楽しめるアクアリウムの世界をのぞいてみてください。



理学療法士
さいとう りゅうた
齋藤 隆太



お知らせ

Information

健康講座のお知らせ

■ 糖尿病教室

(毎月第1火曜日11時30分～ 外来待合ホール)

3 / 5



担当:看護師

※業務等の都合により講師や内容を変更・中止する場合があります。最新の情報については、当院のホームページ等でご確認ください。



患者さん向け フリーWi-Fiのお知らせ

サービス提供エリア

1階 外来待合フロア・各階病棟 デイルーム

患者サービスの充実や利便性の向上を目的として、フリーWi-Fiによるインターネット接続サービスを提供いたします。お手持ちの無線LAN機能を搭載したスマートフォンやタブレット端末等の機器で、インターネットをご利用になれます。



いいぞ!
いばら

昭和40年代の 井原市民病院と薬害スモン

(SMON(Subacute Myelo-Optico-Neuropathy 亜急性脊髄視神経症))

井原市芳井歴史民俗資料館では10月21日(土)から12月3日(日)に、第54回特別展「市制施行70周年記念 井原市のあゆみ」を開催しました。その際に昭和40年代の市民病院の歴史を取り上げましたので、一部を紹介します。

1. 市民病院の設立

井原市民病院は、地域住民の強い要望を受けて市議会の承認を得、1963年(昭和38年)5月に開院しました。当時の病床は100床、診療科は内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・放射線科でした。

市民病院は計画当初から、周辺町村約8万人を診察圏とする**地域病院**となることが想定されていました。妊産婦と乳幼児の保健事業に力を入れ、病院開院に先がけて敷地内に母子健康センターを建設し、母子保健指導のための市内巡回を実施しました。また芳井町と組合立で感染症(伝染病)発生時の入院施設を敷地内に建設しました。

全国的に市民病院は赤字経営が多い中、開院翌年から黒字経営となり順調なスタートを切りました。開院11年後の1974年(昭和49年)以降は、入院患者数は5万人を超え、通院患者数は診療科の増加などにより増加傾向にありました。

しかし、1969年(昭和44年)にはスモン患者が市民病院に集中したことにより、患者数が減少しています。さらに医師・看護師・職員の退職がみられたため、一部の病棟閉鎖や小児科の閉鎖に追い込まれました。その後スモン患者が減少すると患者数は回復し、患者のリハビリ対策と、増加し続ける交通事故被害者のリハビリのため、敷地内にリハビリテーション室を開設しています。

2. スモンの発生と患者の動向

スモンとは、整腸剤キノホルムの副作用によって神経症状(下肢の異常、自律神経障害、視力障害など)が発生し、さらに全身に様々な症状を併発する病気です。数年間原因が判明しなかったため、罹患者とその家族は風評被害にも苦しみました。昭和40年代半ばに全国でスモンが発生しましたが、岡山県内では湯原町と並んで井原・芳井で多発しました。1970年(昭和45年)前半に胃腸薬に使用するキノホルム販売見合わせが通達され、減少に転じました。

直接の原因がキノホルムと判明すると、1971年(昭和46年)に「井原スモンの会」が発足し、国や製薬会社を



相手取った訴訟を起こしています。1975年(昭和50年)には未加入の患者が「岡山西部スモン友の会」を結成し(後に「岡山スモンの会」に合流)、提訴しました。1979年(昭和54年)に全国的に全面和解が成立しました。その後全国的な組織として「スモンの会全国連絡協議会」が発足します。2023年(令和5年)3月現在の岡山県内の患者数は101名です。

3. 井原市の動向

1968年(昭和43年)11月に市民病院のスモン患者が、市長へ救済を求める陳情書を提出すると、山岡昇市長は12月に国と県へ陳情書を提出、翌年には他の地方自治体と連携してスモン対策協議会を結成し、さらにNHKの対談番組に出演するなど活発に活動しました。また市民病院でスモンに罹患した医師・看護師・職員に対応するため条例を改正しています。

市議会も政府への陳情書提出、市民病院職員への感謝決議を行っています。このような活動は政府のスモン病対策を促進しました。

井原市文化財センター「古代まほろば館」 すとう 首藤 ゆきえ

井原市文化財センター
「古代まほろば館」
井原市井原町333-1



外来診療担当医表

2024年(令和6年)1月1日 現在

診療科		受付時間等		月	火	水	木	金	備考
内科	午前 初診(予約外) 再来(予約)	8:30~11:00	吉澤	栗山	島田	梶谷	立古		
			岡大 服部	岡大 岡田	立古	上坂	吉澤		
	午後	予約のみ	栗山	島田	栗山	立古			
循環器内科	午前	8:30~11:00	岡大 吉田	ペースメーカー 外来	徳永	徳永(第1・3・5)	徳永	急患の受付時間に関しては、左記の 限りではありません。	
	午後	13:00~15:00	徳永		岡大 斎藤	福山市民応援(第2・4)	徳永		
呼吸器内科	午前							医師の都合によりしばらくの間、 休診とさせていただきます。	
午後	13:00~15:00	福山市民応援医師 (第1・3)							
神経内科	午前	8:30~11:00 予約のみ					倉敷平成 菱川(第1・3) 大田記念 片岡(第2・4)		
	午後	予約のみ					倉敷平成 菱川 (第1・3)		
糖尿病内科	午前	予約のみ							
	午後	予約のみ			川大 森		川大 磯辺		
消化器外科 外 科	午前	8:30~11:30	小林	合地	杉生	合地	杉生(小林) / 岡大 貴金		
	午後	13:00~15:00	川大 田村(第1・3・5)	合地 手術日	小林	合地(第1・2)	岡大 貴金 手術日		
乳腺外来	午後	予約のみ	岡大 溝尾(第1・3・5)			岡大 松岡 (隔週)		木曜日以外となる場合があります。 第1・3・5月曜日の診療時間は 13:30~16:00となります。	
整形外科	午前	8:30~11:30	予約 平田	予約 平田	予約 平田		予約 平田	すべての曜日で予約がとれるよう になりました。	
	午後		手術日			手術日			
脳神経外科	午前	8:30~11:30			川大 福原				
	午後	13:30~16:00	川大 目黒(第1・3・5)						
眼科	午前	8:30~11:30	岸本	岸本	岸本	岸本	岸本	木曜日の受付時間は11:00まで となります。斜視・弱視の診療は 予約が必要です。	
	午後	予約のみ	手術日	手術日・検査	手術日		予約 大月/岸本		
小児科	午前	8:30~11:30	井上	井上	井上	井上	井上	福山市民応援医師による診療は 受付時間13:00~15:30、診療 時間13:30~となります。	
	午後	13:30~16:00 予防接種(月・木)	井上/福山市民応援医師 予約 [予防接種] 受付時間 13:30~15:30	井上(15:00~16:00) 予約 [乳児検診] 受付時間 14:00~15:00	井上	井上/福山市民応援医師 予約 [予防接種] 受付時間 13:30~15:30	井上		
耳鼻咽喉科	午前	8:30~11:30	岡大 岡野(第1) 岡大 井口 (第2・3・4・5)		岡大 安藤			一般診療は予約無しでも受け付け ますが、予約優先です。	
	午後	13:00~14:00	岡大 岡野(第1) 岡大 井口 (第2・3・4・5) 補聴器相談(第2・4)		岡大 安藤				
産婦人科	午前	8:30~11:30	予約 岡大 小川		予約 岡大 増山			一般診療は予約無しでも受け付 けますが、予約優先です。ただし 第2水曜日午後は休診となります。	
	午後	予約のみ	予約 岡大 小川		予約 岡大 増山				
泌尿器科	午前	8:30~11:30	龍治		龍治	龍治		一般診療は予約無しでも受け付け ますが、予約優先です。	
	午後	予約のみ	龍治		龍治	龍治			
皮膚科	午前	8:30~11:30		川大 中元			川大 中元	一般診療は予約無しでも受け付け ますが、予約優先です。	
	午後	13:00~14:00		川大 中元			川大 中元		
リハビリテーション科	午前	8:30~11:30	予約 中角(第2・4)		予約 岡大 派遣医師				
ドック・健診	午前	8:30~11:30	檀上	檀上	齋藤/原藤	栗山	檀上		
救急科	午前						岡大 青景		
	午後						岡大 青景		
禁煙外来	午前	完全予約制	予約 中角(第2・4) 診療時間 11:00~12:00						
内視鏡検査	午前	胃(上部)	島田/高見 杉生	八木 小林	岡大 赤穂 梶谷	チクバ外科応援医師 小林	栗山 岡大 矢杉		
	午後	大腸(下部)	岡大 服部	八木	岡大 赤穂/梶谷	チクバ外科応援医師	岡大 矢杉		
放射線科	午前		○	○	○	○	○		
	午後		○(岡大 黒田) ○(岡大 富田)	○(岡大 黒田)	○	○(岡大 平木)	○(岡大 黒田)		

■自動再来機の受付時間 8:00~

■診療時間 午前/9:00~(産婦人科、皮膚科 ※火曜日のみ 9:30~、耳鼻咽喉科 第2・3・4・5月曜日のみ 9:30~) 午後/13:00~(脳神経外科13:30~、小児科14:00~)

■休診 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12/29~1/3) ■電話予約 月曜日~金曜日 13:00~17:15 ※ただし、急患の場合はこの限りではありません。



井原市立井原市民病院
〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地
TEL 0866-62-1133 (代) FAX 0866-62-1275 (代)
ホームページ <http://www.ibarahp.jp/> 電子メール byoin@ibarahp.jp

2024年(令和6年)2月発行
発行責任者:合地 明